

第四十二回フオト旬会優秀作品(26年7月14日)

自由題



デイケア 馴染める人と
駄目なヤツ 池田 隆
寸評：涎掛けをいただき、日頃お世話になっています。同じように接していても、感謝の言葉を言える人とそうでない人がいます。あなたはどっち？

下駄の音 蹴出しの風や
宵涼み 大越 鈍鬼
寸評：踊り子の顔を撮らずに足だけ撮る人を蹴飛ばしてやりたい。この写真は瞬間の動きをよく捉えて風を感じます。下五を「祭りの夜」とでも。





山ガール 威風堂々

尾瀬沈む 大槻和彦

寸評：ガールと呼ぶには、やや老け、山姥と言うほどではない元気なオバさん。「威風堂々」と闊歩し、その重みで尾瀬ガ原が「沈む」という表現がおかしくて巧み。



願掛けは 足あがらずに
息上がる 三春

寸評：長い石段。何段きたか数えながら上がってゆくが、もうダメだ。長い石段をうまく撮った腕前と中7と下5の調子の良さを買いたい。



流された 果ての人生

行きどまり 中村 晃也

寸評：お互いを信じて、世の流れについてきたが、とうとう暗礁に乗り上げた。これからは自己責任で対処するしかない。こんな人生考えてもいなかった。甘かった！

今月のお題写真



付け句

今月は大月さんの出題です。群馬県の世界遺産富岡製紙場と、ユルキャラ、それに画面左手のよもぎ売りの小母さんが主な画題と思われましたが…。

- | | |
|---------------------|-------|
| 1) オラが町どう転んでも何も無い | 矢沢 正二 |
| 2) 相続税かからぬ遺産大歓迎 | 池田 隆 |
| 3) 明治には頭上がらぬ平成っ子 | 三 春 |
| 4) 着ぐるみを脱いだ背中にもぐさ置く | 中村 晃也 |
| 5) さて次は宇宙遺産にこの地球 | 池田 隆 |

寸 評：

- 1) 画題の詳細には拘泥せず、オラが町を冷たく観察しているニヒルな感覚。
- 2) 遺産といえはすぐに相続税を思う、露骨な金持ち感覚。
- 3) 自分達（昭和っ子）のことを一言も述べずに、若者を批判するいつもの感覚。
- 4) 着ぐるみの中の人々の疲労は、お灸さえすれば治ると、信じてる古い感覚。
- 5) 沢山有り過ぎる世界遺産に辟易して、宇宙遺産を提唱するやけくそな感覚。